

学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称 博士（医学） 氏名 濱野 博基

主査 教授 荒戸 照世
審査担当者 副査 教授 山本 有平
副査 教授 岩崎 倫政
副査 教授 大滝 純司

学位論文題名

びまん性特発性骨増殖症における応力遮断性骨粗鬆症に対する
骨粗鬆症治療薬の効果に関する研究

(Studies on the effects of antiosteoporosis agents on immobilization-associated
osteoporosis in diffuse idiopathic skeletal hyperostosis)

びまん性特発性骨増殖症（DISH）の応力遮蔽性骨粗鬆症に対する骨粗鬆症治療薬（テリパラチドとゾレドロネート）の治療効果および骨増殖性病変に対する影響について、DISHモデルマウスである *twy* マウスを用いて検討した。その結果、テリパラチドは、DISHにおける応力遮蔽性骨粗鬆症に対して有効であるものの、同時に脊椎の強直や靭帯骨化を助長する可能性が認められた。一方で、ゾレドロネートは骨増殖性病変の進展を助長することなく、骨粗鬆症を改善した。DISHのような骨増殖性病変と骨粗鬆症を併存する疾患には、脊椎骨増殖性病変の進展を助長させないという安全面から、テリパラチドよりもゾレドロネートの方が好ましいと考えられた。

審査にあたり、副査の山本教授から男性骨粗鬆症と DISH の頻度、ゾレドロネートの投与量の妥当性、モデルマウスの病態と DISH の病態の不一致な点について質問があった。副査の岩崎教授から、モデルマウスの限界について質問があった。副査の大滝教授からは、DISH の定義、実験プロトコールの妥当性、テリパラチドの臨床使用における安全性について質問があった。最後に主査の荒戸教授から、ゾレドロネートの用量反応性、用いたモデルの週齢の妥当性について質問があった。申請者はこれらについて適切に回答した。

この論文は、骨代謝に携わる研究者のみならず、脊椎外科医などの臨床医においても高く評価され、今後の骨増殖性病変を有す骨粗鬆症患者に適した骨粗鬆症治療薬の選択とアプローチが期待される。

審査員一同は、これらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ、申請者が博士（医学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものと判定した。